



〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第72号 2010年10月1日

資料見聞

純信とお馬の絵

「土陽伝笑図絵」より



「土陽伝笑図絵」(高知市立市民図書館蔵) 一六 五臺山僧純心ノ花簪

幕末の悲恋物語、純信・お馬の事件は、はりまや橋の名前を全国区にし、よさこい節をとり入れたよさこい祭りによって今も有名です。

この話を描いた資料が高知市立市民

図書館に保管され

ています。「土陽

伝笑図絵」という

タイトルのこの資

料は、幕末頃の土

佐のうわさ話など

を集めて文章と絵

で紹介したもので

ようです。純信・

お馬の話は、一六

番目に「五臺山僧

純心ノ花簪」と題

し、純心(信)が

山の下の鍔工の娘

である於馬と通

じ、純心が簪を

買ったことや、讚

岐に逃げて逮捕さ

れたこと、於馬は

須崎に追放、純心

は川之江で寺子屋

を開いたことな

ど、ほぼ現在の伝

承と同様の内容が

記されています。

ただし、歌詞は、

「土佐ノ高知ノ播磨屋橋デ坊サン簪買ノヲ見タドコヘ挿ス耳へ挿ス」と、後半が異なっています。絵には簪らしきものを耳にあてている純心が描かれていますから、これは簪をどうするのかと問われた純心が自分の耳へあててごまかしている様子かも知れません。

「土陽伝笑図絵」にはほかにも、幕末頃のうわさ話や笑い話が多数のせられていますが、うわさが歌や謎の形で流布しているものも多く、純信・お馬の事件に限らず「歌」が当時のニュース・メディアであったことがわかります。

純信・お馬と思われる絵柄は、高知県立図書館の「土佐奇談絵巻物」にも掲載されていますが、こちらには文章がありません。(梅野光興)



「土佐奇談絵巻物」(高知県立図書館蔵)の純信・お馬と思われる絵

## 企画展

# 「幕末維新土佐庶民生活誌」によせて

会期 平成22年10月8日（金）～11月23日（火・祝）

梅野光興・中村淳子

### 幕末の土佐の庶民の暮らしは？

今年、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の影響で、坂本龍馬をはじめとする幕末の志士たちが注目され、彼らの思想や行動にスポットが当たっています。

ですが、その時代に土佐に生きた人々は龍馬や志士ばかりではありません。名も無い土佐の庶民はいつたいたのでしょうか。また、今は有名な歴史的イベントは庶民の目にはどのように映っていたのでしょうか。

十月八日から始まる企画展「幕末維新土佐庶民生活誌」は、この問いの答えを探ってみようと企画しました。ところが、いざ調べ始めてみますとこれがなかなか難題であることがわかりました。

まず、幕末の土佐の庶民の実態を記した文字資料や絵画資料が限られており、まだまだわからないことだらけです。次に、近年荻慎一郎氏や大野充彦氏らの研究が進んできましたが、この分野の研究には未開拓の部分が残されています。

加えて、企画展を担当する民俗部門の学芸員が得意とする「聞き取り調査」も今回は使えません。幕末に生きていた人は今では一人もいませんからね。

結局、今回の企画展では幕末維新を銘打ちながら、その時代の資料に限定せず、前後の時代に対象を広げて、幕末維新の生活を考えることにしました。

### ●「真覚寺日記」の魅力

生きている人に話を聞くように幕末の土佐の人の話を聞きたい、という私たちの願いは「真覚寺日記」によってかなり満たされました。

「真覚寺日記」は、後世につけた題で、もともとは「地震日記」「晴雨日記」という表題で、現在の土佐市宇佐の真覚寺の僧侶・静照が書いたものです。はじめは安政の大地震の様子を後世に伝えようとの思いで書き始めたようですが、自身の生活、宇佐浦のカツオ漁、土佐国内外の情報などさまざまなことが記録されており、土佐の幕末を知る貴重な記録になっています。

幕末に生きた土佐人の日記としては、ほかに山中多之助の「幡多日記」（高

知県立図書館蔵）、島村右馬丞の「春秋日記帖」（高知市立自由民権記念館寄託）、山中駒吉の「隠見雑日記」（高知県立歴史民俗資料館蔵）などが知られています。

今回の展示では、随所に静照たちの日記を引用し、当時の人々のリアルな息づかいを感じて頂くよう考えています。

### ●描かれた江戸時代の土佐

ただし、残念ながらどんなにくわしく書かれた記述でも、写真や映画のようには当時の有様を見ることはできません。そこで、当時の土佐の生活を描いた絵画を探してみるのですが、あまり数がありません。今回は幕末に限らず絵画資料を集めました。

土佐山内家宝物資料館蔵の「浦戸湾風景」は、年代が無く厳密な時代が不明ですが、江戸期の高知城下町から浦戸湾口付近の風景が生き生きと描かれています。堀川を往来する船や、荷物を運ぶ馬、天秤棒を担ぐ人々の姿が当時の運搬の様子を伝えてくれます。

非日常の年中行事や祭礼の様子を描

いた資料は、比較的残されています。

「土佐年中行事図絵」（高知県立図書館蔵）は、正月から師走までの城下町を中心とした年中行事を描いたもので、ラフなタッチながら素朴な面白さがあります。御駈初など武家の行事が多いようですが、カイツリや虫送りなど庶民の行事も描かれています。

「藤並神社御神幸絵巻」（土佐山内家宝物資料館蔵）は、現在の県立図書館や文学館の敷地にあった、藩祖山内一豊らを祀る藤並神社の祭礼の様子を描いたものです。この祭礼には、城下町の花台や藩内の村々の民俗芸能が多数動員されています。この絵巻が面白いのは、現在に伝わる花取り踊りや太刀踊り、獅子舞などが描かれていることです。踊っている人の髪型や衣装は変わりましたが、踊りの基本は江戸後期とそれほど変わっていないように見えます。民俗伝承の息の長さに感心します。

### ●病気と災害

幕末の人々も病気や災害に苦しめられました。安政五年（一八五八）の「真覚寺日記」には、トンコロリ（コレラ）が流行し、異国船が逃げ帰ったという話が記されています（八月三十日）。「隠見雑日記」を見ると、痘や風邪などが毎年流行していることがわかります。

安政元年（一八五四）の大地震は土



豆腐屋  
「土佐国職人絵歌合」(高知市立市民図書館蔵)より



「浦戸湾風景」(土佐山内家宝物資料館蔵)  
現在のかるぼと付近。堀川に多くの船が往来している。



「土佐年中行事図絵」(高知県立図書館蔵)より「六月 夏祭ノ体 見物人群集 大小各種ノ燈出ツ」。  
人々が見上げるほど大きな御神燈。絵馬提灯と呼ばれるものである。



「絵本大変記」(高知県立図書館蔵)より。  
「大震／己ら(笑)／は／る／事はおもはず  
／飛び出ん／人よりも我命／をしけれ」



「藤並神社御神幸絵巻」(土佐山内家宝物資料館蔵)より、香宗土居村の棒遣。  
香南市野市町立山神社の棒術として今に伝えられている。同市川北の棒踊りも  
同系のものである。



直会絵馬（香美市土佐山田町間須賀神社蔵）明治12年11月15日  
社頭での宴会風景と思われる。赤い物すえにのせた皿鉢料理、箸拳を楽しむ人など細部も興味深い。



浦戸湾景絵馬<部分>（香南市香我美町徳王子 若一王子宮蔵）  
明治19年11月奉納。稲荷新地から浦戸湊口五台山方面を眺望した絵馬。  
手前の洋館は明治15年開設の高知測候所。

その年の十月、徳川家は大政奉還を上奏し、十一月坂本龍馬と中岡慎太郎が暗殺されました。時代は明治へ変わり、庶民の生活も徐々に変化していきます。

香美市土佐山田町間須賀神社の拝殿に、明治十二年（一八七九）に奉納された社頭での直会を描いたとおぼしき絵馬が飾られています。男性の頭を見ると、鬘を結った人とザンバラ髪の人が入り交じっており、移行期の人々の風俗をよく伝えています。

香南市香我美町徳王子若一王子宮に掛けられた明治十九年（一八八六）の浦戸湾景絵馬には、汽船が走り、洋館や工場が見えます。同じ若一王子宮の江戸時代末期と思われる浦戸湾の絵馬と比べると時代の変化が感じられます。

龍馬や半平太が活躍した時代、その一方で庶民たちも時代の変化に翻弄されながら生きてきました。この展示会がその庶民の生き様をわずかでも伝えることが出来れば幸いです。

十月三十日（土）には高知大学教授の荻慎一郎先生による講演会「幕末土佐の社会と民衆」を行います。また、期間中に講座や展示室トークを催し、幕末土佐の庶民文化についてともに考えていきたいと思えます。ぜひご参加下さい。

佐にも大きな被害をもたらしました。全半壊・焼失・流失した家屋が七万戸、死者三千人と言われています。絵金の描いた「絵本大変記」（高知県立図書館蔵）は、災害の様子を戯画風に描き、百人一首をもじった狂歌が添えられています。悲惨な状況を笑いで乗り切ろうという姿勢がうかがえます。このよなユーモアのセンスは「土陽伝笑図絵」にも充ち満ちており、人々の暮ら

しのなかで「笑い」がいかに大事であったかが感じられます。そのような精神は龍馬や半平太の手紙にもうかがえるものではないでしょうか。

### ●幕末から明治へ

時代の影も確実に庶民生活に影響をおよぼしています。

安政二年（一八五五）の「真覚寺日記」によると、異国船が沖合に見え

ると言って浦で騒動がおきていますし、同日記を見ると、さまざまな人から情報を仕入れ、全国の情報が入ってきていることがわかります。慶応三年（一八六七）夏には、土佐版「ええじゃないか」というべき「のへろ」「のえくり」「大仏踊り」「京踊り」などの踊りが城下で流行しました。夕方に鏡川に集まった群衆が踊り狂い、仮設の店が建ち並びました。

## 考古

### 岡豊山の遺跡

#### ④ 岡豊山古墳の発見

昭和九年（一九三四）十月に発見された岡豊山の古墳（岡豊山古墳）には、どのような副葬品が納められていたのでしょうか。当時の工事記録は、新聞記事くらいしか残っていません。さて、記録となるようなものは、他になかったのでしょうか。

寺石正路の写真集の中に「岡豊山山上古墳ヨリ堀ス土器古刀剣」と題した写真が一枚ありました。この写真は昭和九年の発見時の写真のようです。写真は、どこかの民家の玄関先で撮影されているようです。西田良氏の自宅かもしれません。写真を見ると古墳の出土遺物と岡豊城跡の瓦などが写っています。左から「石白一点（半分に割れたもの）・平瓦一点・丸瓦二点・平瓦一点・丸瓦一点・平瓦片」その前に



岡豊山山上古墳ヨリ堀ス土器古刀剣

須恵器の壺  
一点・箱に  
入れられた  
直刀一点な  
どがあるよ  
うです。  
出土した  
時は、遺存  
状況が良好  
であったこ  
とが良くわ  
かります。

（岡本）

## 歴史

### 「武市半平太の手紙」展を終えて

大河ドラマの影響でしょうか、半平太展の反響はかなりのものでした。

ところで、ドラマのなかの半平太は、捕縛後もなく切腹して果てましたが、実際には半年以上も取り調べはありませんでした。獄中闘争を決意し、理論武装して入牢した半平太としては、肩すかしを喰らった格好になったのですが、実はこの時期に富にあてた手紙のなかに、企画展で紹介できなかった面白い手紙がたくさんあるのです。

個人的には、志士としてではなく、どこにでもいる土佐の「若おんちゃん」半平太の姿が垣間見える、元治元年（一八六四）一月～五月頃の手紙が好きです。半平太を尊敬し、ひたすら世話を焼く牢番たちが、鰻の稚魚を煮て食べさせた時の手紙。

「…にへましたと云うて、しんせつにて、くわされた。どふも、きらいともいわれず、こまり入申候。むもふ御さりまするふと云ふきに、誠にゑ、と云ふたれハ、又取つて持てきましよふと云ていんだが、又もつてこねハゑ、がと氣遣候。有難めいわく、困り入候。」

この手紙をもらった富の顔が目には浮かぶようです。素の半平太は、本当に誰にでも気を遣う、飾らない



「笑泣録」〈部分〉

優しい人物だったのかも知れません。また機会があれば、こうした手紙を集めた展示会もやってみたいと思う今日この頃です。

（野本）

## 民俗

### 田辺寿男さん、逝く

田辺寿男さんは、土佐の人びとの暮らしを写真に撮り続けた民俗写真家です。当館では、これまでに二度、田辺さんの写真展を開催しました。『ぼくの村は山をおりた』では、「集落移転」をとりあげ、鋭い視点と温かなまなざしが大きな話題と共感を呼びました。『いのちの河・くらしの川』は、田辺さんから約五万点の写真資料をご寄贈いただき、これを記念した写真展でした。

いただいた写真資料については、『白黒フィルム編』の刊行を皮切りに当館で目録化作業を続けています。また、書籍掲載や展示会開催などを目的とする各方面からの閲覧や貸出の依頼に添えています。

本年六月一七日早朝、田辺さんは逝去されました。お元氣な頃、田辺さんはよく調査に連れて行ってくださいました。県下各地を一緒に歩いた想い出は尽きず、「調査に行こう。じゅんこさん」と、誘ってく



民俗調査中の田辺寿男さん（1998年 芸西村久重）

ださる田辺さんの声は今も聞こえるような気がします。これからも写真展などによって、田辺さんの写真をご紹介しますしたいと思います。

田辺さんの写真は生き続けるのです。

（中村）

# 平成22年度前半のもよおしをふりかえる

## 岡豊山

### さくらまつり



4月3日・4日

桜の季節にあわせて、館に登る坂を歩行者天国にし、音楽イベントや夜桜のライトアップをおこないました。投票で1位を決める食1グランプリも大好評で、2日間で6500人の人出でにぎわいました。

4月10日

## リニューアルオープン!

昨年11月から5ヶ月の休館を経て、展示室やホールなどが生まれ変わりました。開館日には尾崎知事も出席して記念式典がおこなわれました。



リニューアルなった総合展示室



リニューアルオープンを祝う岩国鉄砲隊による祝砲。午後には実演もおこなわれました。



テープカット



さわやかな空の下、リニューアル開館記念式典がおこなわれました。会場は改修された車寄せ。



リニューアルの目玉・長宗我部展示室も身動きが取れない状態。

5月3日

## 歴民の日



折り紙やよろい体験、民話の家、クイズなど多数の催しをおこない千人を超える入館がありました。



5月16日のバスツアー。「武市半平太の手紙」展を中岡慎太郎館の豊田学芸員が解説。

第1回  
長宗我部フエス



岡豊城ミステリーツアー、仮装コンテスト、記念講演会などが開催されました。

7月31日～8月31日

2010年 NHK大河ドラマ  
特別展 龍馬伝

1ヶ月で入館者  
3万5千人突破!



ももちかくんと龍馬くんのかたい握手



7月30日、サンピアシリーズで開会式がおこなわれました。



7月31日の木村幸比古先生の記念講演会



8月22日の佐々木克先生の記念講演会



そしてついに8月29日、3万人突破しました。



展示室トーク。坂本龍馬記念館の三浦学芸員

藩物語『土佐藩』の

出版に寄せて

館長 宅間一之



「土佐藩」宅間一之著 現代書館刊

「すべては郷土を知ることから始まる」を念頭に「地域史(資料)の研究とその教材化」をテーマに教員当時から取り組んできた。当館でも館の認知度向上のため、請われれば各種カルチャー教室や生涯学習の場で、いろいろのテーマで高知県歴史を語り続けている。本書はこの時のメモを基本に組み立てたものであり、藩政という歴史の流れを意識しての記述ではない。先学の業績に頼りつつ、できるだけ読み易く理解しやすいものにと心がけた。

近年若い方々の歴史への関心が高まっている。戦国武将の人気は特に高い。関心を高めた動機はゲームのキャラクターと聞く。しかし動機はなんであれ、興味を持ち感動すれば好奇心はかきたてられ、知識獲得への要求は増してくる。それが新鮮な出会いほど生きた知識となつて応用へとつながってくる。当館や元親の居城岡豊城跡を訪ねる若い人達は多く、その熱心な研究姿勢は積極的で行動力にも富んでいる。この人達の情熱と、多岐にわたる研究の成果には大いに期待してい

る。国際社会・国際交流という言葉はよく聞く。外国を知り、外国人との交流も重要かも知れない。しかしその根本は自分の生活する場「郷土を知る」ことに始まる。郷土を知らずして人との交流やその広がりはない。郷土の歴史を知り、そこに育まれた文化遺産や文化を知ってこそ、人々との絆も培われ交流の輪も広がる。その意味からも地方史研究の重要度は極めて高い。本書がそうしたことへの一助にでもなれば幸である。

## 前田博史写真展 「命の起源」

東京写真月間2010  
「森はふるさと」

生物多様性の恵み：巡回里帰り展

平成22年 9月11日(土)～10月3日(日)  
2階多目的ホールにて開催



© 前田博史

高知の写真家・前田博史さんの森の写真展です。「東京写真月間2010／森はふるさと・生物多様性の恵み」の企画展として、東京・北海道に続き今回は里帰り展になります。屋久島や大山、白神・四国山地など、森の中をさんぽするように「自然の写真からのメッセージ」を感じに来てください。

## 龍馬関連図録・目録・研究紀要

- 「土佐勤王党盟主 武市半平太の手紙」 200円
- 「平井・西山家資料目録 歴史分野」 520円  
平井収次郎の遺品を中心とした資料集
- 「高知県立歴史民俗資料館研究紀要」13号 400円
- 「坂本龍馬湿板写真の調査経緯について」  
(山口孝子・三井圭司著) 収録

## 臨時休館のお知らせ

平成22年12月27日(月)～平成23年1月1日(土)は年末年始休館です。

岡豊風日 (おこうふうじつ) 第72号  
平成22年10月1日  
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 0888662221  
FAX 0888662211

開館時間  
午前9時～午後5時  
年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館あり

観覧料  
通常期(常設展)大人(18才以上) 450円・団体(20人以上) 360円  
(企画展)常設展示込500円・団体(20人以上) 400円

無料  
・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)

印刷：川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/  
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成22年 9月～12月の催し

企画展

## 「幕末維新土佐庶民生活誌」

平成22年10月8日(金)～11月23日(火・祝)

坂本龍馬や武市半平太が活躍した幕末維新という激動の時代、土佐の人びとはどのような生活を営んでいたのでしょうか。歴史的な事件とちがひ、日々の暮らしについては記録が残りにくいのですが、この展示会では、当時の日記や絵画を手がかりに、幕末維新期の土佐の人びとの暮らしぶりや年中行事、祭礼などをかいまみたいと思います。



「土佐年中行事図絵」  
(高知県立図書館蔵) より  
カイツリ

### 講演会

●当館へ電話等で要予約

10月30日(土) 14:00～16:00

「幕末土佐の社会と民衆」高知大学教授 荻慎一郎氏

### 講座

●当館へ電話等で要予約

10月16日(土) 14:00～15:30

「真覚寺日記にみる幕末の暮らし」担当学芸員 中村淳子

11月13日(土) 14:00～15:30

「近世土佐のまつりと行事」担当学芸員 梅野光興

### 展示室トーク

●予約不要

10月9日(土) 14:00～15:00

担当学芸員による企画展の展示解説

※上記の催しは全て観覧料が必要です。

## 土佐のまほろばカルチャーウォーキング

11月7日・14日

岡豊城跡の周辺や国分地区の史跡を巡ります。

岡豊地区 11月7日(日) 9:00～16:00

国分地区 11月14日(日) 9:00～16:00

料金 各2,500円(昼食込)、先着各30人

## 史跡めぐり

12月4日(土)

文化庁主催 発掘された日本列島2010を見る  
(香川県立ミュージアム)

専用の申込書をご請求のうえお申込みください。

参加費要 ※応募者多数の場合は抽選となります。

## 次回企画展

## 企画展 「昔のおもちゃ博物館」

2011年1月2日(日)～3月6日(日)

郷土玩具の収集家である山崎茂さんから、このたび土佐の郷土玩具が当館に寄贈されます。企画展では、土佐物はもちろん、山崎さんの郷土玩具行脚に同行する雰囲気、全国各地の個性豊かな郷土玩具をご覧ください。来年の干支のウサギや三月節供のおひなさまなどテーマ別コーナーもお楽しみください。



権九郎狸起き上がり